

一般社団法人

モビリティ・イノベーション・アライアンス

我が国では人口減・偏在、エネルギー問題、気候変動・災害激甚化等の課題がある中で、自動運転をはじめとする新たなモビリティの社会実装や多様なデータ連携・活用の実現を通して、生産性の向上、新産業創出、国際競争力の強化、人々の日々の生活における幸せの実現が求められています。

一般社団法人モビリティ・イノベーション・アライアンス(英語名: Mobility Innovation Alliance Japan) は、内閣府・戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 第2期「自動運転 (システムとサービスの拡張)」の取組みの一環として行われた、23大学の学術関係者と公的研究機関等の連携体である「モビリティ・イノベーション連絡会議」の活動を引継ぎ、『移動の革新に関する技術開発や社会実装を起動する会員主導の団体』となることを目指して設立されました。

2022年7月の設立以来、SIP-adusのレガシーを承継する国際ワークショップ企画・運営や現地研究会の実施など、会員とともに、多様な活動を展開しています。

<活動内容>

-  文理融合の学術ネットワーク承継・発展
-  分野横断型政策や取り組みの検討・提案
-  多様な産官学連携機会を生み出すワンストップ窓口
-  国際会議の企画・運営を通じた国際連携研究の促進
-  研究・技術開発を社会の行動変容へつなげる広報活動等
-  若手人材の育成

◆ 活動報告会・懇親会の開催

文理融合の学術ネットワークの構築・発展、及び分野横断の総合知を高める活動として、活動報告会を開催しています。2025 年 9 月の活動報告会では、東京大学大学院 新領域創成科学研究科の中村特任教授より、「日本の公共交通の未来における」と題して特別講演をいただきました。また、賛助会員の東京大学の塚田准教授、多摩大学の高橋准教授、香川大学の友近客員研究員からの話題提供と共に、事務局より 2024 年度の活動内容及び 2025 年度事業計画の報告が行われました。



◆ Mobility Innovation Week Japan の企画・運営

SIP-adus において構築された国際連携ネットワークをレガシーとして承継し、また自動運転以外の分野における連携へと拡張すべく、2022 年まで 9 年間にわたり継続された SIP-adus Workshop を継承する「mobility Innovation Workshop」を中心に、複数の関連する国際会議、技術ツアー等の機会を提供する「Mobility Innovation Week Japan」を 2023 年から企画・運営しています。2025 年 11 月に開催した Mobility Innovation Workshop 2025 には、海外からの参加者 65 名を含む合計 156 名の専門家・関係者が参加し、自動運転をはじめとする新たなモビリティについて、それぞれの取り組みの共有、技術面、制度面、社会面など多様な観点からの議論、新たな国際連携の可能性の模索が行われました。また、Mobility Innovation CAMP による現地視察等を通して日本の取り組みについて共有を図るとともに、専門家同士のネットワークの維持・拡大の機会を設けることができました。



◆ 現地研究会の実施

多様な産学官連携機会を生み出していく活動の一環として現地研究会を開催しています。2025年2月には、長野県塩尻市における塩尻 MaaS、自動運転バス運行サービス等について、現地で視察・試乗を行いました。また、現地関係者との意見交換を行うことで、技術面、事業面、社会面等における成果及び課題について理解を深めるとともに、今後、モビリティ・イノベーションの社会実装に向け必要な研究等について参加会員による議論を行いました。

※ 第2回現地研究会報告書（概要版）：

<https://mobilityinnovationalliance.org/wp-content/uploads/2025/03/a4961d570ab61118a5746791b7acc51.pdf>



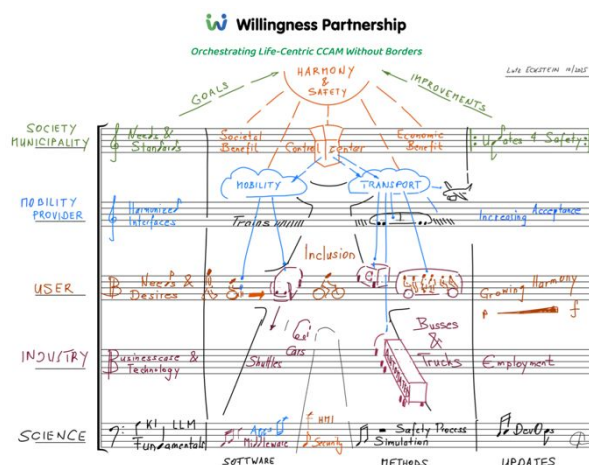
◆ 研究開発事業の受託

新モビリティに関する政策、施策への分野横断型の提言に向け、また、多様な産学官連携機会を生み出すワンストップ窓口としての活動を図るため、本法人は東京大学モビリティ・イノベーション連携機構と共に、2023年度に開始された戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）第3期事業の下、「スマートモビリティプラットフォームの構築に向けた国際的な研究連携・対外情報発信活動」を受託・実施しています。本事業において、わが国におけるモビリティサービスの再定義と社会実装に向けた戦略策定、インフラのR・デザインに向けた研究開発、安全、快適、活気あふれる交通インフラ技術の開発、モビリティサービスを支えるデータ基盤構築等に向け、それぞれの実施主体と共に、国際的な研究連携を促進していきます。

◆ 国際連携基盤としてのパートナーシップ締結

国際連携研究の促進を図るため、2025年11月、ドイツの Future Mobility Partnership (FMP) と”Orchestrating life-centric CCAM without borders”に向けた共通の理念のもと、「Willingness Partnership」の正式立ち上げに関する覚書（MoU）を締結しました。

このパートナーシップは、国際的かつ分野横断的な連携基盤として、Connected, Cooperative and Automated Mobility (CCAM) をはじめとする新たなモビリティ技術の責任ある社会実装を目指すものであり、倫理的かつ包摂的、そしてグローバルに連携したモビリティの発展に向けた、協働のエコシステム構築の第一歩となります。



<法人概要>

設立日：2022年7月1日

所在地：〒153-8505 東京都目黒区駒場4-6-1 東京大学生産技術研究所 Cw501

理事長：天野 肇（前 ITS Japan 専務理事、元東京大学客員教授）

副理事長：須田 義大（東京大学名誉教授、東京工科大学片柳研究所 所長、教授）

理事（五十音順）：

内村 孝彦（前 ITS Japan 常務理事）

大口 敬（東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構長、東京大学生産技術研究所 教授）

三好 博昭（同志社大学名誉教授）

森川 高行（名古屋大学未来社会創造機構モビリティ社会研究所 特任教授）

賛助会員：41 会員（学術会員：30 会員、特別会員：7 会員、行政・事業者団体等会員：4 会員）

学術会員（所属組織）

茨城大学学術研究院応用理工学野機械システム工学領域、岩手県立大学ソフトウェア情報学部、香川大学イノベーションデザイン研究所、神奈川工科大学研究推進機構、北見工業大学工学部情報通信系、京都先端科学大学オープンイノベーションセンター・亀岡、京都大学大学院地球環境学堂、慶應義塾大学モビリティカルチャー研究センター、埼玉工業大学自動運転技術開発センター、高崎経済大学経済学部、多摩大学経営情報学部、筑波大学システム情報系社会工学域、電気通信大学先端ワイヤレス・コミュニケーション研究センター、東京科学大学工学院機械系、東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構、東京都市大学理工学部機械工学科、同志社大学、同志社大学モビリティ研究センター、名古屋大学大学院情報学研究科附属組込みシステム研究センター、名古屋大学未来社会創造機構モビリティ社会研究所、日本大学生産工学部自動車工学リサーチ・センター、日本大学理工学部、広島大学 IDEC 国際連携機構、福岡大学工学部電子情報工学科、法政大学社会学部、明治大学先端科学 ELSI 研究所、横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院、麗澤大学工学部ロボティクス専攻

特別会員（所属組織）

愛知製鋼株式会社、イーバイ愛知株式会社、株式会社オリエンタルコンサルタンツ、scheme verge 株式会社、株式会社三菱総合研究所、ヴィソン多気株式会社、株式会社 U' eyes Design

行政・事業者団体等会員（所属組織）

特定非営利活動法人 ITS Japan、柏市、鋼性防護柵協会、和光市

公式ウェブサイト：<https://www.mobilityinnovationalliance.org/>



<会員募集>

（一社）モビリティ・イノベーション・アライアンスでは、取り組み主旨に賛同し、協力いただける賛助会員を募集しています。入会希望の方は下記会員規則をご確認のうえ、事務局までご連絡をお願いします。

会員規則：<https://mobilityinnovationalliance.org/member-reg>

会費規程：https://mobilityinnovationalliance.org/membership_fee

<連絡先>

一般社団法人モビリティ・イノベーション・アライアンス事務局

E-mail: miaj-sec@its.iis.u-tokyo.ac.jp